

寮生のことば

岸 慧 (SEL コース、高校3年)

私は小学校4年から約六年間アメリカで過ごし、2008年の7月に立命館宇治高等学校に編入してきました。帰国時の私の実家は愛媛だったので寮に入りました。私は一人暮らしや寮生活をしたことがなかったので、入寮前はどうか心配でした。しかし、ハウスマスターがとても優しく、分からないことがあれば親切に教えてくれ、できる限りいろいろと助けてくれたので、最初の一週間で寮生活になれることができました。寮に入っておかげで自分でアイロン、洗濯、掃除などをするようになり、少しはこの寮生活で自立したと思います。

私がこの寮生活で一番苦労したことは他の寮生となじむことです。中途入寮であり、その上、帰国当初私はかなりアメリカ感覚だったので、打ち解けるのにはかなり時間がかかりました。今では寮に入ったおかげで、同寮の生徒とはものすごく仲が良くなり、この三年間で寮友達にいろいろな日本の文化、上下関係、人と人との接し方、などについて教わることができ勉強になったと思います。

今考えてみれば、私はこの寮が一番効率の良い場所にあると思います。通常寮は学校の近くに建設されますがこの寮の場合それが違います。なぜならもし学校の近くに寮が建てられたら、近所には病院、歯医者、スーパーマーケット、郵便局などが無くとても不便だからです。この寮は日常生活に関してはとても便利で優れていると思います。

この寮は勉強環境にもものすごくすぐれていると思います。おかげで勉強に集中できました。例えばいつでも学習室を借りることができます。最近、各部屋から繋がるワイヤレスインターネットが完備され、リサーチや課題がスムーズに行えるようになってとても便利です。テスト期間二週間前には消灯が無く、24時間勉強できる環境を寮が作ってくれます。これらのおかげで勉強がはかどりました。

私がこの寮生活で一番気に入っていることは、ほぼ毎月行事があるということです。新入生歓迎会、花火大会、バーベキューパーティ、お月見、ハローウィーン、クリスマスパーティなどなどいろいろなイベントが催され、とても楽しいです。毎月行事では上級生



や下級生の友達作る絶好の機会です。私の場合はこれを通して沢山の先輩、後輩たちと友達になれ、日々の寮生活がより楽しくなりました。

親とは離れ離れになり、孤独になるのではないかと心配しましたが、時にはやさしく時には親みたいになんかしてくれるハウスマスターや家族みたいな寮生のおかげで寮生活が At Home になり快適でとても楽しいです。その上、寮に入寮し、自己管理ができるようになりました。これらの経験を生かし、一人暮らしの大学生活に役立てていきたいと思っています。



立命館宇治中学校・高等学校

〒611-0031 京都府宇治市広野町八軒屋谷 33-1

TEL : 0774-41-3000 FAX : 0774-41-3555

HP : www.ritsumeit.ac.jp/ujc E-mail : uji-returnee@ujc.ritsumeit.ac.jp



帰国生が半数を占める、立命館宇治の生徒寮の紹介です。生徒寮を、日常生活だけではなく人間形成などの場とするために、約100名の寮生を18名の教員・スタッフが担当しています。

帰国生の受入に生徒寮は不可欠です。運営管理が困難で、寮を持つ受入校が減ってしまいました。立命館宇治はがんばってください。

その恵まれた寮生活の様子を岸君が文章にまとめてくれました。感謝！